

2年保健 傷害の防止

私たちは誰もが、日常生活の中で事故や自然災害に巻き込まれて、怪我をしたり命を落としたりする危険性があります。

だからこそ、危険の予測や応急手当の仕方を知り、被害を最小限に抑えたり、怪我の悪化の防止、命を救うためにはどうしたらいいか十分に理解することが大切です。

1 傷害の原因と防止

教科書 P58,59

ワークシート

ノート 2年 P16,17

①傷害とその原因

人の生理的機能に障害を与えることまたは健康状態を不良にすること

(人的)要因

危険な行動、不安定な心身の状態

いたずら、悪ふざけ

(環境)要因

疲労、イライラ、不安、過信、未熟

危険な物、場所、自然の悪条件など

刃物、機械、薬品

風、雨、霧、積雪、凍結、酷暑

水辺、見通しの悪い場所、高い場所

人的要因

〈危険な行動〉

- ・ルールや注意事項を守らない
- ・周囲の安全を確認しない など

〈不安定な心身の状態〉

- ・急いでいる
- ・眠い
- ・別のことに夢中
- など



傷害

環境要因

〈危険な物〉

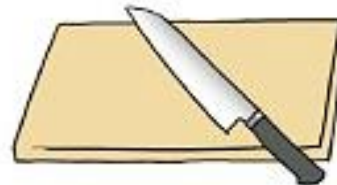
- ・刃物
- ・とがった物
- ・硬い物
- ・重い物
- など

〈危険な場所〉

- ・暗い
- ・安全柵がない
- ・立ち入り禁止の場所
- など

〈自然の悪条件〉

- ・雨や雪
- ・強風
- ・寒すぎる, 暑すぎる
- など



○どんな事故や傷害が多いのか？

・日本人の四大死因

全体の約6割(P58)

(がん)、(心臓病)、(肺炎)(脳卒中)

・小中学生(10~14歳)の死亡要因

がん、(自殺)、(事故死)

H23年度まで13年連続3万人以上(H30は19959人)



事故死の内訳

(交通事故)・・・約40%

(水死)・・・約30%

H29年度が
3215人。

1948年以降
最少！



●死亡の原因 (2014年)

全体 (合計 1,273,004 人)



10~14歳 (合計 501 人)



事故死の内訳 (合計 85 人)



0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 %

(厚生労働省「人口動態統計」)

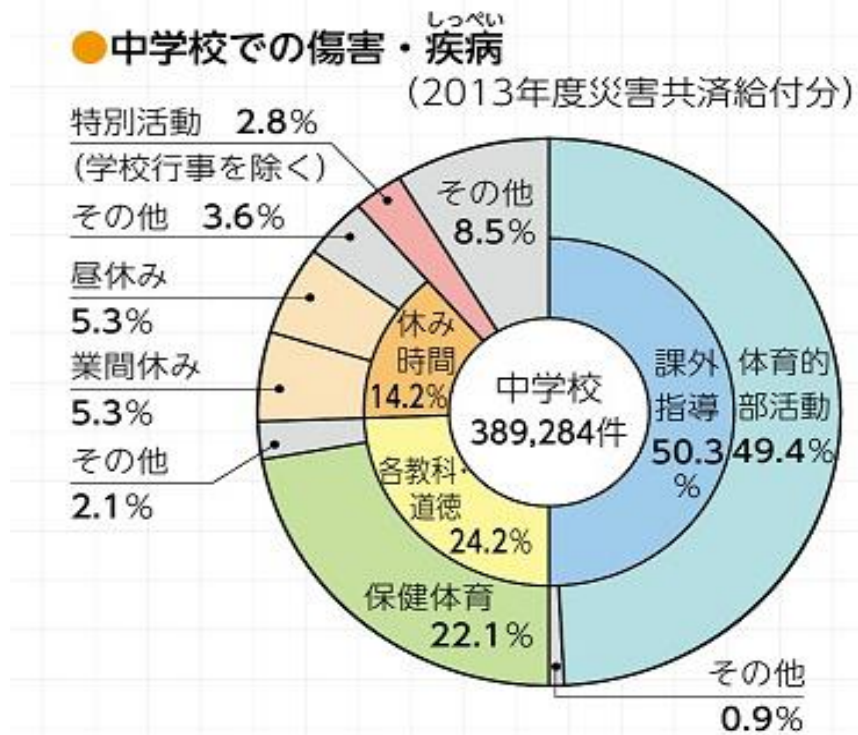


・中学校での怪我

《どんな場合》 (課外指導)特に体育的部活動

《どんな場所》 (体育館)、(運動場)など

《どんな種類》 挫傷、打撲、(捻挫)、(骨折)



②傷害の防止

- ・人的要因への対策

(危険な状態)についての知識を持つ

(状況を把握し、判断して)安全に行動

(危険予測・危険回避)

- ・環境要因への対策

危険な物や場所についての(点検)、(整備)、
(改善)

* (自然災害)についても日頃から備えておく

ハインリッヒの説

「ヒヤリ・ハット体験」の重視

「1:29:300」



重傷事故**1回**に対して、
29回の軽傷事故、
300回の傷害にならない事故
を経験している

* 重傷事故に繋がる前に防ぐことが大事！

◎話し合ってみよう。

どんな危険が潜んでいるかな？

① 運動部活動中に、屋根の上に上がったボールを取ろうとしています。



② 上流では雨が降っていますが、この辺りは晴れているので、川の中央で遊ぼうとしています。



③ 部活動で遅くなった帰り道、いつもと違う街灯のない近道を通ろうとしています。



保健は（**実践**）の学問！

知識として頭に入れてるだけでは**全く意味がない！**

今回の内容は、自分の生活の中でどんなところに関わりますか？また、生かされますか？